



琵琶湖・沖島における通船インターン事業  
春季報告

滋賀県近江八幡市 沖島自治会

平成 28 年 3 月

## 琵琶湖・沖島における通船インターン事業 春季報告

夏に引き続き、平成 27 年おきしま通船春季インターン事業を 3 月 14 日（月）から 3 月 20 日（日）までの 1 週間で実施しました。

春季インターン事業では、船長を誘致し地域に根付いて頂くためには、働く環境を整える事が重要であるとの意識から、沖島の魅力づくりの一環として「沖島ひな祭り」を開催しました。

春のインターン事業には、弓削商船高等専門学校から 3 名の学生に参加して頂きました。

この時期は、冬の寒さが緩み春めいた沖島

へ観光客が多く訪れる時期でもあり多くの方が通船を利用されます。

春季は今年度二回目のインターン事業でもあり、地域の皆さまからケンケン山の清掃作業や漁業体験など、沖島振興事業への参加について積極的に声を掛けて頂きました。沖島の振興事業への取り組みと、おきしま通船への取組みであるインターン事業が一体となって動き出した春季事業でした。



船長誘致の環境を整える事を目的として実施しました「沖島ひなまつり」では、インターン学生が企画し、お雛さまめぐりではピアノによる雛祭りの音楽を演奏し、交流会ではひな祭りに集まった子ども達を集めて合唱をしました。

ひな祭りの中で沖島の文化や伝統に触れることが出来、学生には沖島への愛着を持って頂く事により、沖島の皆さまと一層強い絆を結ぶことが出来ました。



## 琵琶湖・沖島における通船インターン事業 春季報告

交流会では滋賀県立大学の助教に来ていただき、昭和 30 年代に撮影された沖島の映像を見ながら、沖島在住の高齢者の方に昔の生活や風景、漁などの話を伺いました。子どもたちは昔の風景と今の風景を重ねながら、沖島の皆さまは昔を懐かしみ、親の世代やインターン学生は沖島の新たな一面を発見する事ができました。



ひな祭りではインターンの企画により、子どもたちを囲み島内外を問わず、また老若男女を問わず触れ合うこととなり、参加された方から、「みんなで子ども達を見守るこのような取組みは薄れつつあり、沖島では今後も続けて欲しい」とのご意見を頂き、また、インターン学生からは、「今後も沖島で事業がある時には、再び沖島を訪れ参加したい」と、沖島とインターン参加者との強い繋がりを作る事ができました。

インターン最終日、3月20日（日）には、コミュニティセンターにおいて沖島自治会とインターンの学生達で、インターン事業を終えて感じたことを中心に意見交換を行いました。

出された意見としては、通船の料金やインターン事業の継続の要望など、貴重な意見を聞くことができました。

インターンに参加した学生達が乗船する 16 時の通船には多くの通船関係者が集まり全員で見送って頂きました。



以上